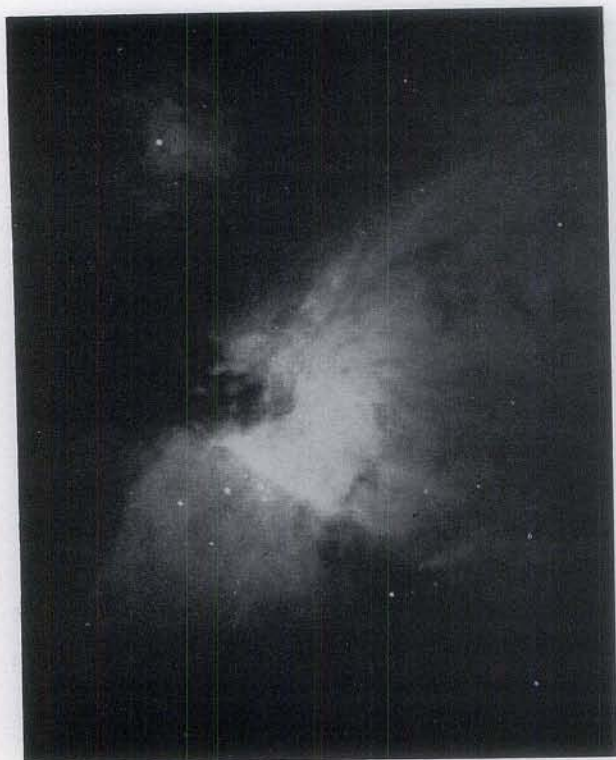


オリオン星雲

(本文 251 頁参照)



上図 H_{α} 線の輝度分布. 水素ガスの出す輝線が強く拡がっている. 表紙写真に写っている大部分の星はガスによってかくされている. 1968年3月1日撮影. コダック 103_a-E 乾板, H_{α} 干渉フィルター使用. 有効波長, 6570 Å, バンド幅 45 Å, 露出 5 分.



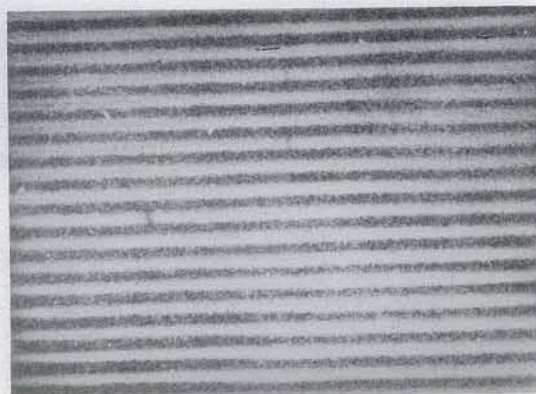
上図 青色光の輝度分布. 電子温度一万度のガスが出す光は青い方が強い. コダック H_{α} -O 乾板, L39 フィルター使用. 有効波長 4200 Å, バンド幅 800 Å, 露出 5 分.

左図 黄色光の輝度分布. ガスの出す光は, この波長では少し弱くなり, 星雲内の星間塵による散乱光で主に光っている. 比較的多数個の星が写っている. コダック 103_a-D 乾板, Y50 フィルター使用. 有効波長 5800 Å, バンド幅 600 Å, 露出 5 分. 三枚の直接写真は岡山天体物理観測所 74 吋鏡ニュートン焦点で撮影.



下図 オリオン星雲中心部の多重スリットによる [O III] 禁制線の視線速度分布. 各所にスペクトルが二重になっている所が見られる. (Ap. J. Suppl. 4, 199, O.C. Wilson, et al より)

偏光方向 ↓



↓↓

HD

37021

37022

37023

37041

37042

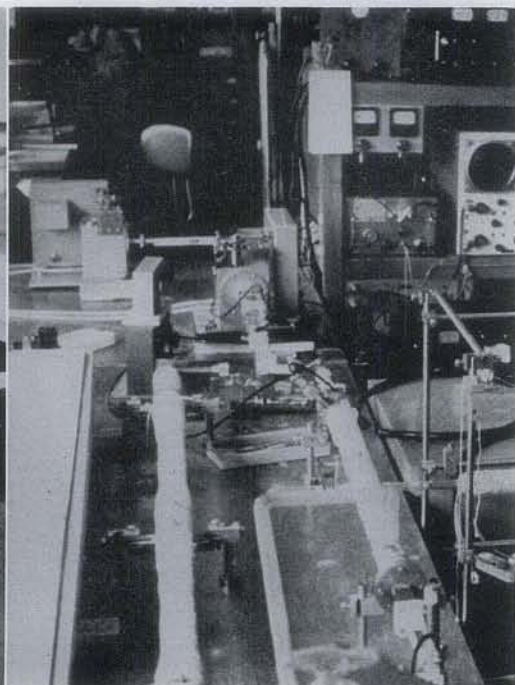
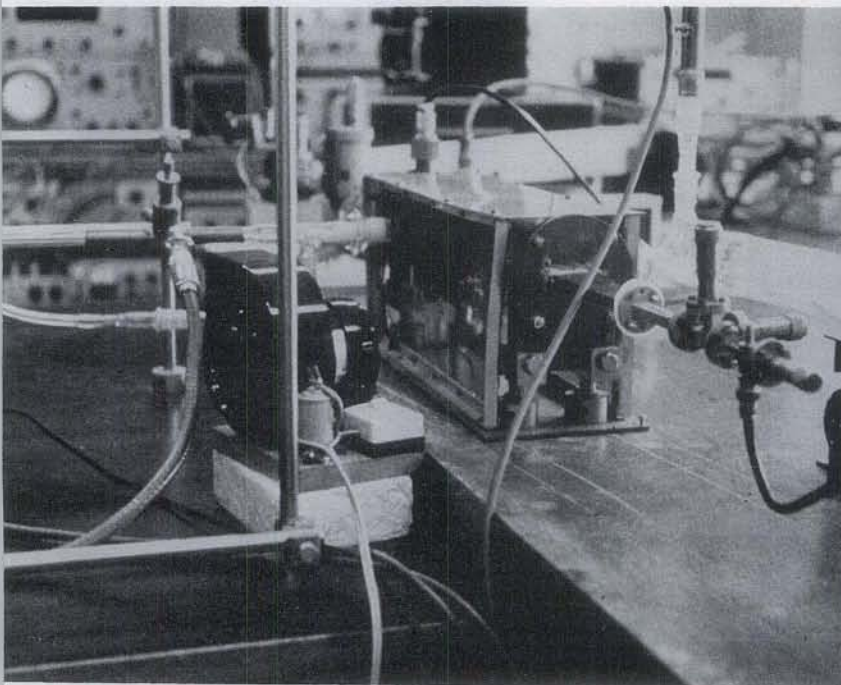
37061

上図 オリオン星雲中心部にある星々の星間カルシウム H 線。お互いの角距離が 10 秒程度でも吸収線の形が異っている。岡山天体物理観測所 74 吋望遠鏡。クーデ焦点・F10 分光器・光電子増幅管使用。

右図 パラ星雲のグロービュール。グロービュールが楕円形をしていて、その軸が中心星（左下方）の方向を向いている。中心星の輻射によって、グロービュールの形が影響されている事が判る。（写真提供 G.H. Herbig）



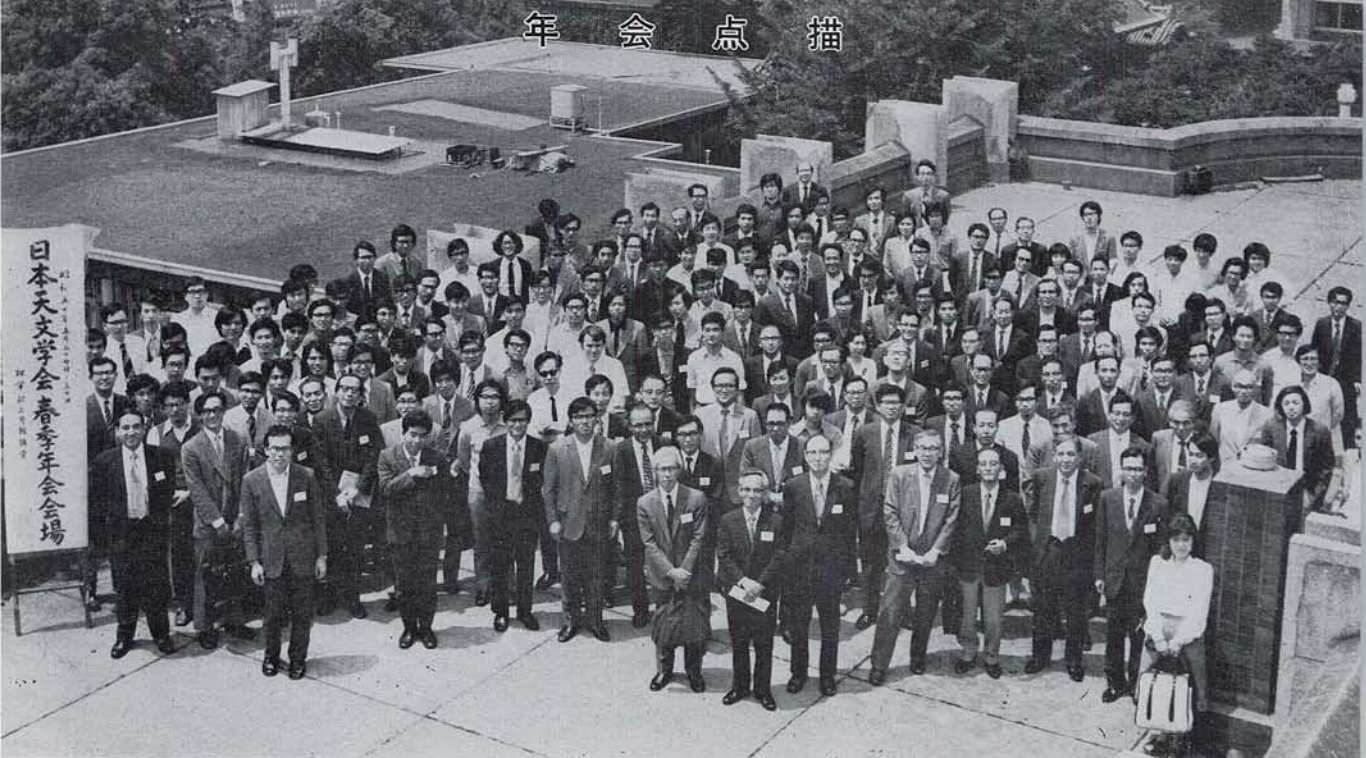
分子マイクロ波スペクトルの実験 (本文 258 ページ参照)



▲ ラジカル測定用、左が放電反応部、右が吸収セル、手前が検波器。ラジカル（基）は不安定なので特殊な方法が必要となる。

▲ 普通の分子用にはこのような長いセルを用いて吸収をかせぐ。両方の写真共相模中研 齋藤氏提供。

年 会 点 描



▲ 全員による記念写真



◀ 天体発見賞
受賞の挨拶
をする桑野
善之氏



▶ 挨拶をする
弓新理事長



▲ 斉藤前理事長より功労賞を受ける池村俊彦氏



▲ 懇親会風景